

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

認知症対応型共同生活介護

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
世田谷	グループホームさくらの家	1.ホームでの生活が楽しくなるような取組みが望まれる。	1.4月から職員の体制が整うので、余暇活動を積極的に再開する。	1.散歩(大人数は体制的に厳しいので少人数で実施)、折り紙ボランティアの再開、外出の機会を増やした、デイとも連携しデイのレクにも参加。
		2.運営推進会議をホームの運営や利用者の支援に活かすことが望まれる。	2.前年度はオンラインでの開催を目指したが、入居者家族から難しいのではと意見が出たため見送った。今年度は入居者家族は施設での参加、包括や地域からの参加は施設かオンラインで調整を行い実施する。	2.施設での開催を実施している。入居者家族や民生委員に声掛けをして参加者を増やしている。7名を目標にし、3月は職員含め9名の参加であった。
		3.根拠に基づいて統一した支援に向け、マニュアル作成など業務水準維持向上のための取組みに期待したい。	3.マニュアル作成が追いついていない。管理者・ケアマネージャーを中心に取組んでいく。現在は業務の見直しを行っているがスケジュール管理しながら進めていく。	3.マニュアルまで追いついていない。業務の見直しはほぼ完成し、実施。法人が合併したので法人全体でマニュアルの見直しを順次実施している。

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
世田谷	愛の家グループホーム桜新町	1.職員一人ひとりに応じたさらなるスキルアップを図っていく。	1.法人内、事業所内の研修及び、社外研修にて、知識の蓄積と現場での活用をスタッフ同士で共有を図る。	1.(社内)自立支援ケア研修とデータ記録 バイタルデータの分析と活用 栄養、運動、睡眠、排泄の重要性理解 福祉用具担当者による研修 毎月のユニット会議でアセス検証と更新
		2.認知症に対する勉強会等で職員だけでなく、家族や地域への認識を高める。	2.社内外の研修、勉強会への参加を促し、その内容を家族向けにまとめて家族レター等と同封し情報提供する。	2. ホーム、ユニット会議で事例による勉強会 世田谷区研修センターの研修参加 松沢病院主催の認知症研修参加 家族レターによる状況報告
		3.ウィズコロナとしての地域との連携を模索し、交流再開を行う。	3.運営推進会議において、医療関係者や地域包括担当者による最新の情報提供や勉強会などの開催、地域の方々との合同イベントによる地域交流を図る。	3.運営推進会議にて 医療関係者による情報提供 地域包括担当者による情報提供 近隣住民と合同イベント企画 (消防訓練、炊き出し等)

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取り組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
北沢	グループホーム ウェルファー	1.利用者の生活の場が広がるような企画の再開を希望する。	1.新型コロナウイルス感染等の状況を踏まえてボランティア活動の再開をしていく、WEBでのボランティア活動や職場体験などの提案をしていく。	1.新型コロナウイルス5類になったがボランティア活動が再開できていない状況。 2024年4月より音楽ボランティア活動から再開予定。
		2.職員が認知症ケアのプロとして認知症の理解や対応を身につける事ができるよう希望する。	2.接遇委員会を中心に全体会議等で認知症の勉強会の事例を挙げて実施する。利用者本位の介助支援の内容や接遇も含めて毎月の接遇委員会から目標にして注意喚起を行い共有する。	2.接遇委員会より毎月目標を掲げ毎朝行われる、申し送り目標を読み上げ注意喚起を行っている。3月に行われる全体会議にて「認知症が見えている世界」を行う。
		3.薬に関する事故を課題と捉え職員が意識して実施できるよう周知徹底を望みたい。	3.事故委員会を中心に全体会議や毎日行われる申し送りなどで周知徹底をする。内服事故があった際は「なぜ?なぜ?」シートを活用しその場の状況や心理状態も含めて提出をし事故防止を行う、また、改善点に関しては事故委員会を中心に全体会議等で話し合いを行う。	3.事故委員会より議事録をグラフ化するなど周知徹底を行ってはいるが職員の過信による事故もある。「なぜ?なぜ?」シートの分析を活用して事故委員会を中心に全体会議にて注意をしていく。

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
玉川	グループホーム奥沢・共愛	1.自立支援に向けたプログラムを充実させることを目指している。	1.生活歴などのこれまで実施してきたことを、入居後も実践していけるようにする。また、高齢になって興味を持って行えることになってきた入居者に対しては新たな取組みを小集団で行えるように声掛けをしていく。 心身機能の維持のための取組みの強化を図る。	1.心身機能の維持についてはビデオ体操を取り入れることで職員に過度な負担なく実施できている。体調や心身機能の状態に合わせて立位での体操も実施している。 散歩や階段昇降など、入居者の身体機能に合わせて少人数で実施している。 生活歴を踏まえて楽器演奏の時間を設けるなど実施している。
		2.重度化に対応した介護力を身に着けることを目指している。	2.重度化に伴い、移動、食事、排泄、入浴など基本的な介護についての研修を実施する。また、過介助にならないための観察力やその意義についても研修することで重度化が進行しないよう努めていく。 介護方法については実践の中でより良い方法を見出し、職員会議や職員専用の掲示板で共有する。	2.介助方法などの変更は掲示板を使用して周知している。 過度なケアになっていないかは主治医とも連携し薬を減らすことや、過介助にならないよう努めることで重度化を防ぎつつ、ご本人の心身機能の変化は家族とも共有している。

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取り組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
玉川	中町グループホーム ふるさと	1.事故に至る可能性のあった出来事を発見し報告する「ヒヤリハット」報告書をより多く収集し、利用者の安全確保に繋げていきたい。	1.利用者一人一人の個性を尊重し、可能な限り自由な生活を送れるように支援をしているが、自由な生活の提供には事故やヒヤリとした瞬間がついて回るので、個々の利用者についてヒヤリハットを回収し、事故を防ぐよう取り組んでいきたい。	1.職員の意識が薄く、書面に残すところまで繋がっていない。引き続き介助する時などヒヤリと感じた事に対応し事故等を防ぐよう注意しているので、報告書に書くように繋がるよう意識付け、指導している。
		2.コロナ禍で地域との交流が困難であるが、地域の一員として活躍できるよう地域住民との交流を維持する機会が増えていくことを期待したい。	2.散歩は以前より行っているが自治会への行事の参加、買い物に行ったりする頻度を増やしていくよう取り組んでいきたい。	2.自治会の行事も少しづつ始まり、運営推進会議や回覧板で知ることが出来る様になり、対象者や規模を自治会に確認を取りながら、参加できるものに参加してくことが出来た。買い物は、混む時間帯を避け頻度は少ないが出かけられるようになった。
		3.生活状況を知らせる「ふるさと便り」を、毎月家族に郵送して好評を得ている。コロナ禍が長引くようであれば、更なる改善策が望まれる。	3.面会制限が解除できるように法人本部との連携を取りながら感染状態の確認をおこなう。また、対面式の面会手段以外の面会方法が可能かどうか検討していきたい。	3.事前に面会の予約を取ってもらいつつ、いつでも面会や外出の対応が出来る様になった。

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
玉川	ニチイケアセンター用賀	1.ケアに対する姿勢を明文化する事で、業務の標準化や職員のスキルアップにつなげる。	1.定期的に衛生管理表や業務管理日誌の点検を行い、日々のケアにつなげる仕組みづくり、スタッフとの意見交換を明文化し、スタッフのスキルアップにつなげる。	1.話しやすい環境に取組み、点検見直しの確立の計画を行った。 各自メモ、ノートを活用しグループワークの中での課題について、月1回ミーティングのなかで確認を行った。
		2.トップダウンではなくボトムアップの気風が生まれる仕組みづくり。	2.ひとりひとりのケアに対する思いや願望を聞き、職員全体で検討するしくみを構築する。	2.きづきノートを作成。ヒヤリハット、ニヤリハットの書きやすいよう、付箋を活用し申し送りの徹底情報収集、共有の仕組みづくりを行った。

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
玉川	ニチイケアセンター世田谷宇奈根	1.看取りや重度化した利用者への対応を交えてさらに検討を進められるようにしたい。	1.職員の看取りや重度化した場合のケアについて職員が考え学ぶ機会を作る。また本人や家族とケアプラン説明時等ACPについて話す機会を持つ。	1.会社が変わったことで看取りについての対応も変化しているので現在学習中。
		2.多くの職員にも地域活動を知って活動に参加してもらい、地域に開かれた身近な福祉情報発信基地としての役割を持つ。	2.コロナ禍で地域住民と話す機会が減っていた。グループホームに興味を持ってもらう為、地域向けの掲示板を道路に設置し時季メッセージを発信。ホーム前のごみ拾いや地域のイベントに参加し地域住民と話す機会を持つことから始める。	2.散歩時の挨拶から始めてホームの名前が変わったことから知ってもらうようにしている。

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
玉川	グループホームたのしい家宇奈根	1.ご入居者様の日増しに変化する心身機能の変化に目を向け、認知症上の進行や身体の重症化、虚弱化を意識したケア方法検討への取り組み。	1.日常的な家事参加の機会の提供や季節感のある行事、趣味活動を提供する。	1.入居者様が毎月の行事を楽しみにされており、毎年やる内容が変化しており趣向をこらした行事ができています。また家事活動やレクに関しても普段やらない方にも声かけやアプローチをしあって頂けることもみられた。
		2.様々なリスク対策に加え、新型コロナ対応のシュミレーションでいざという場合への備え、水害時への対策強化への取り組み。	2.リスクに対する訓練と対策を講じ、ヒヤリハット提出の個人差が出ないよう目標設定で推進を考える。	2.コロナ対策や災害時への対応の社内研修に加え、毎月一人1枚以上のヒヤリの提出の目標設定を実施。出た件数を毎月の全体会議で周知、検討・対策までを実施している。
		3.ご入居者様のケアプランの理解や確実な支援、記録内容等スキルアップへの取り組み。	3.支援方法、記録内容の個人差はリーダーが指導、または練習シートを用いて指導を行う。	3.ケアプラン更新時には職員に周知できるよう開示用ファイルの作成をし、いつでも閲覧可能にしている。

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
砧	優っくりグループホーム鎌田	1.職員のさらなる育成。	1.年間の育成計画を遂行すると共に、外部研修にも積極的に参加して講師となる人材の育成に努める。	1.年間の研修スケジュールに沿って研修を実施している。外部研修に関しても積極的に参加出来ております。
		2.ウィズコロナに向け、家族との連携した支援へ妙案を出し合う。	2.家族との連携を強化していく。	2.運営推進会議の開催にご家族様のご意見を伺っている。また4月から時間を設けての直接面会・外出・外泊を解除。 ケアプラン更新時はご家族様にお越し頂き直接話を伺いながら支援内容のご意見をお伺いしております。
		3.ウィズコロナに向け、地域や子供たちとの交流やボランティアとの連携が出来ていない。	3.再構築に向けた準備を行い、電子媒体や事業所玄関、事業所駐車場等も活用しての交流機会を設けていく。	2.運営推進会議の開催にご家族様のご意見を伺っている。また4月から時間を設けての直接面会・外出・外泊を解除。 ケアプラン更新時はご家族様にお越し頂き直接話を伺いながら支援内容のご意見をお伺いしております。

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取り組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
砧	喜多見グループホームかつらの木	1.コロナ禍での面会制限。	1.法人本部との連携を図りながら周辺地域の感染状況の確認、オンライン必要機材導入も検討する。	1.令和5年5月よりコロナウィルスが感染症法上での5類移行となり、面会制限は解除とした。 しかしながら、新聞やテレビ等で取り扱われていないだけで、地域拠点総合病院職員のお話では過去最大の患者数とのこと。 周辺の高齢者施設及び教育機関でクラスター化しているとの情報もあり、予断を許さない状況である。
		2.面会制限のご家族等に対する状況報告が不足している。	2.定期的な行事以外についても普段の生活の中身が見えるような形でのご案内を検討する。特に面会制限がある時期については頻度を上げて対応する。	2.生活の中身がわかりやすいよう写真を挿入した、事業所通信を職員が作成し配布、生活の状況をわかりやすく報告した。 また体調不良時等、外部医療機関に受診が必要な状態の際には、電話連絡の他にメール等を活用して文書で事前にご案内しておくことで、スムーズに対応が図れ、本人数のご様子が変わりやすくなるよう配慮した。
		3.現在保有しているAEDを緊急時に町会に貸し出す等をきっかけに地域との繋がりを再考する。	3.まずは近隣自治会への情報提供から始める。	3.今後運営推進会議内での提案を実施していく。

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
砧	花物語せたがや西	1.利用者の日々の生活の中で残された力を活かす。	1. 介護士の人員配置の充実。 及び利用者各人の個別の認知症の周辺症状を理解し、それに即した支援ができる。 朝の申し送りで前日の水分摂取量の適正、且つ排便状況を確認し、それに応じて個別に対処する。必要があれば医療連絡を図る。	1. 利用者各フロアに日勤帯職員は平均3～4名の配置体制をとっている。 介護カンファレンス、現場、事務間で情報共有(データに基づく)を即時行っている。
		2.一日の水分摂取の基本摂取量を確認し、排便コントロールを実施する。	2. 朝の申し送りで前日の水分摂取量が適正か、且つ排便状況を確認し、それに応じて個別に対処する。 必要があれば医療連携を図る。	2. 水分摂取に関するデータを正確に記録し、その内容を踏まえた上で排尿、排便コントロールと紐づけして考察する。規定量に達していない場合は、食事摂取量と共に対処策を講ずる。 日々の排便コントロールは、3日を目処として対処し、主治医の指示に従う。医療連携に関してはこれに限らず、緊急性、優先度に於いて家族の了承の元に個別対応とする。

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
砧	グループホームあかり	1.利用者にとって楽しい時間をより多く持てるようさらなる充実を期待する。	1.コロナ禍により、外出支援は控えていたが、ケア会議などで徐々に散歩等の外出の時間を増やすなど検討する。また室内でできるレクリエーションを増やしていく。	1.個々のアクセスメントをしっかりと行い、それぞれ何が好きな事で続けられるかを職員とケア会議を通して話し合った。結果、塗り絵、パズル、計算ドリル等、集中して個々の時間を持てることが多くなった。室内レクとして、テレビにユーチューブが見られるよう機器を設置し、利用者が音楽等を楽しめる環境づくりを行った。
		2.より多くの地域の方々が参加できるよう、運営推進会議の持ち方について工夫されることを期待する。	2.高齢者施設であり、多人数を施設内に入れることは現状厳しいため、書面開催を継続する予定だが、感染状況によっては会議を施設内で開催する事を検討していく。また、オンラインでの会議を検討していく。	2.現状、施設に関係者を呼び地域運営推進会議を行っている。引き続き、感染対策には十分に気を付けて、生きた意見が生まれる生産性のある会議の場となるように努める。
		3.マニュアルの見直しや環境整備、業務の標準化に取り組み職員の業務負担を減らし、利用者に寄り添う時間の確保に期待したい。	3.・ケア会議での業務内容、マニュアルの確認を行う。 ・日頃の職員へのヒヤリング、新規雇用の継続。 ・毎月リーダー職との話し合いの場を持ち、業務改善に取り組む。	3.業務改善について、必要であればケア会議の場で意見交換を行うようにしている。また、リーダー職ともよく話し、必要不必要な業務を話し、業務負担の軽減に努めている。

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取り組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
鳥山	グループホームかたらい	1.新たな雇用を創出するなどして法人全体で「働き方改革」を実践し職場環境の改善に努め利用者サービスの品質向上につなげてほしい。	1.今後の創出に向けて特定技能の外国人の雇用開始。新人職員教育をチーム全体で行う体制を作りなおすため役割分担を再度行う。その他職員に関しても意欲を持ちながら継続して働き続けられるよう、勤務フロアを変更するなどの機会を持ちながら、新たな役割や仕事担当する、学習の機会を作る等しながら意欲を持ち働きやすい職場づくりを行っていく。	1.特定技能外国人雇用が11月から開始した。その他職員に関しても意欲を持ちながら継続して働き続けられるよう、勤務フロアを変更し、新たな役割や仕事担当し、新しい体制づくりを行った。
		2.管理者を補佐するリーダー層の育成が始められているが、より組織的な人材育成計画が法人全体で図られることを期待したい。	2.それぞれの職員、立場での役割分担の明確化を行い、チームとしての能力を向上させていく。それと同時に研修計画を利用しながら、個々の支援の能力、質の向上を図る。	2.具体的な職員の将来像について個別に話し合いを行いながら、法人での育成計画の深化について、職員を巻き込みながら今後計画作成を行う予定。
		3.BCP(事業継続計画)は完成が見込まれてはいるが、アクシデントを更に多面的に想定し深化することが望まれる。	3.個々の入居者への支援についてのマニュアル化は積極的には行わないが、支援の基本については、市販の本を利用し、基本をチームで確認できる体制をとる。マニュアルについては、整備はされている者の、一般職員が加筆修正する体制を取っておらず身近なものとなっていないことが予想されるため、担当を決めその中で加筆修正が加えられるようなシステム構築を行う。	3.マニュアルの見直しを一般職員とともに行い、より使いやすく実践的なマニュアルが整備できるよう行っている。職員数に限りがあり、同一職員が担当を掛け持ちする状況にあり、その為、業務増加がありその点が課題である状況は改善していない。BCP作成済。

令和4年度 第三者評価結果に係る改善課題、取組方針及び取組結果

地域	事業所名	令和4年度 評価結果に係る改善課題	事業所の取組方針・実施状況	
			改善のための取り組み方針	実施状況(令和6年3月時点)
鳥山	グループホームつどい「島田家」	1.利用者の日常生活の様子を家族へ情報提供する仕組みと家族との交流や連携を図るためのICTの活用について検討していくことに期待したい。	1.日々の状況についての発信については、今後も継続していく。ICTの活用については、施設単独での対応は困難なため、本社とも協議しながら対応を行っていく。	1.ICT導入については、引き続き本社検討中である。SNS発信を実施している。
		2.アセスメントにおいて課題分析を意識的に行い個性の高い介護計画を作成することができるよう努めていくことが望まれる。	2.アセスメント書式の変更、追加を実施していく。	2.アセスメント書式に別紙として課題分析項目を追加し、対応している。
		3.利用者に合わせた対応を心がけ、介護度と介護量のバランスの理解を促し改善の取り組みの継続に期待します。	3.職員指導の継続と、日々の状況観察を継続して行っていく。必要時には、ご利用者様との相談の上、介護度の見直しを速やかにおこなっていく。	3.職員指導を実施するなかで、「なぜその対応が必要なのか？」といった根本的な部分を深堀するように取り組んでいる。介護度の見直しについては、引き続き随時行っている。